

平成29年度 第1回草津市食育推進計画策定委員会 議事概要	
日時	平成29年6月21日(水) 午後1時30分～3時30分
会場	草津市役所2階特大会議室 ステージ側
出席者	委員 戸崎宏樹委員長、加地まり委員、川口広樹委員、伊吹美賀子委員、 宇野浩一委員、西田満美子委員、喜田久子委員、木村友紀委員、 義川恭子委員、株本加純委員、柳澤誓子委員、竹村京子委員、 草川愛委員 〔計13名、順不同〕
	事務局 健康福祉部長・西典子、副部長・小川薫子、健康増進課長・田中みどり、 同課参事・奥谷幸生、同課専門員・田中亜紀、山岡道子、同課主査・田中優佳、 同課管理栄養士・吉澤世莉香
欠席者	委員 酒井純江副委員長、海老久美子委員、宇野満寿美委員、角垣賢委員、 山本真由紀委員

次第1. 挨拶

本日は、御多用のところ、草津市食育推進計画策定委員会に御出席をいただきまして、本当にありがとうございます。

また、委員の皆様におかれましては、本市の保健衛生行政に御理解と御協力を賜りますことに厚くお礼を申し上げます。

さて、当委員会でございますけれども、草津市では草津市の健康づくり計画であります「健康くさつ21」の基本理念「誰もが健康で長生きできるまち草津」を実現するために、食育を通じた取り組みの基本計画として、草津市食育推進計画を策定しております。この策定に関しまして、御審議を賜りたいと考えております。

本年度は草津市食育推進計画の第2次計画の最終年度に当たりますことから、次期計画の策定を進めてまいりたいと考えております。

また、本市では、皆様に御審議いただきます草津市食育推進計画、これをはじめといたしまして、本年度、健康福祉関連では10の計画につきまして、策定、見直しの予定をしております。

これらの計画策定、見直しにつきましては、今年の3月に策定をしました健幸都市基本計画、こちらの基本方針を踏まえまして、健康づくりの総合的な推進につきましては、「健康くさつ21」を中心に、本日の食育推進計画など検討をしております。

また、地域共生社会の実現につきましては、地域福祉計画を中心といたしまして、全体の整合を図りながら、各計画策定を進めているところでございます。

皆様には、この全体像も踏まえつつ、今後の御審議を賜ればと思っておりますので、どうかよろしくお願いを申し上げます。

さて、本日の委員会でございますけれども、御案内のとおり、第2次草津市食育推進計画の評価、また次に、第3次食育推進計画の概要と骨子、そして策定のスケジュールにつきまして、御意見を賜りたいと考えています。

皆様方には、限られた時間ではございますが、忌憚のない御意見をいただきますようお願いを申し上げます。開会に当たりましての挨拶とさせていただきます。

本日は、どうぞよろしくお願いを申し上げます。

次第２．委員及び事務局の自己紹介

次第３．委員長、副委員長の選出

会場より、事務局提案を求める声あり。事務局が戸崎委員を委員長に、酒井委員を副委員長に推薦し、一同了承。

(委員長)

皆さん、戸崎と申します。このたびは、この委員長という重い職務を仰せつかりますけれども、できる限り頑張っていきますので、本日の議事がスムーズに進行しますよう、皆様の御協力をよろしくお願いいたします。

次第４．第３次食育推進計画の策定について、事務局より説明。

(委員長)

では、事務局からの説明について、何か御質問、意見等はございませんでしょうか。

(委員)

最後の計画の指標に、現状値、目標値があって、資料では目標が達成されてない項目が多かったように思いました。現状から目標に至る数字を変えた、その根拠を教えてください。

(事務局)

計画策定時には、国や県の目標値を基に、草津市が目指すところの数値を策定委員会で検討していただき目標値を定めました。第２次計画の本編の４７ページ、４８ページにあります。表の一番右端に目標値設定の考え方という欄があります。項目によって違いますが御理解いただきたいと思います。

(委員長)

よろしいでしょうか。ほかに御意見ございますか。

では、続きまして、第２次草津市食育推進計画の評価について、事務局より説明をお願いいたします。

次第４．第２次草津市食育推進計画の評価について、事務局より説明

(委員長)

事務局からの説明や数値目標に対する現状値や評価などについて御意見、御質問があればお伺いします。

特に、資料の３－１の表面ですけど、評価に×が結構ありますけれども、それに関してや、また生産者、教育機関、地域、保健医療機関、行政みんなが取り組まないと、これは改善しませんが、どのように取り組んでいくべきなのか。また取り組んできたけれども、うまくいかなかったという反省があれば、お話や意見をお聞きしたいと思

いますがいかがでしょうか。この資料3-1の最初に、1人で食事をする割合の朝食（12～14歳）は、策定時が10.7%、現在値は16.28%ですがこのことに関して聞いてみましょうか。

この孤食ということに関してどう思われますか。

（委員）

一番上の子どもが小学校4年生ということで、一緒に食べる機会が多いですが、この年代を想定すると、塾や習い事など帰宅時間がばらばらなど、親の職業環境にも影響されるのかと想像できますが、だれかと一緒に食事をして、食材の話などをして、楽しく食べると、食べた物の栄養がきちんと体のためになると考えていますので、食育に関心がある人も含めて、もっと食事を一緒に食べることを促していけたらいいと思います。

（委員長）

貴重な意見ありがとうございました。何を食べるか、一緒に食べようという関心があれば、一緒に食べることはできないと思います。そういう観点からも、きょうは流通関係の方が来ておられないので意見をいただけなくて残念です。

生産者の立場から食べ物、食材、孤食をなくすなど、食育、食べ物に関心を持たないといけないと思いますが、そちらの方面から意見をお願いします。

（委員）

生産者とかかわりが強い中で、草津では地元野菜の愛彩菜を売り込んでいます。先日ギネスに挑戦というので、「愛彩菜に変身」という挑戦を行いギネスに登録されました。草津市民の方の食への関心は高まってきたのではないかと考えています。生産者の方については、地産地消と言いますか、自分でつくったまたは地元でつくられた野菜を草津で食べてほしいなという思いもたくさんお持ちです。農協では、草津の野菜の愛彩菜をイベントで販売するなど、地域のいろんなイベントを通じて地元野菜を紹介していきたいと思っています。食育に関する意識を高め、関心を持ってもらえたらなと思っていますし、こういう活動もしていきたいと思っています。

（委員長）

ほかに御意見ございますか。

（委員）

健康推進員の活動は、赤ちゃんから高齢者の方までを対象に活動しています。赤ちゃんでは、離乳食レストランで若いお母さんたちと一緒に離乳食を試食したり、意見交換したりして食育という面で、バランスよく食べよう、朝食を食べようという活動をしています。でも、なかなかそれが数字にあらわれてこないのかなと思ったり、どうしても若い方が朝食をとらないというのは、統計的に見ると多いです。小さいときからの食育が関係あると思います。朝食を食べよう、バランスよく食べようというのを幼いときから考えて、それを実践してきたらひとり住まいの方でもきちんとできるのではないかと考えて、私たちの活動も幼いときから、若いお母さんからしていかないとだめだなと思いました。生活習慣の予防と関係する野菜を350g取りましょうという活動など、食育は私たちの活動全般にかかわってくることなので、これからも頑張っ

す。

(委員長)

はい、ありがとうございます。学校などで小さなときから食育というものを受けないと、大きくなったら多分もう何もできないと思いますので、PTAとしては給食についてどのように思われていますか。

(委員)

まず、皆さんが給食を食べられていたころとは違い、今は子どもたちが給食の量を選べます。量が多いので返すということができるようになってきています。幾ら学校給食を食べているからといって、十分野菜が足りているというわけでは私はないと思います。給食の献立を見ている分では、いろんな食材が使われていますし、PTAのほうでも、各学校で給食の試食会をさせてもらっています。参加した親にしたら、こんな給食を食べているのかというのがわかると思いますが、親の立場で言うと、お昼御飯をちゃんと学校で食べてきているなという感じぐらいしかありません。どれぐらいの量を食べているのかは親が把握しているわけではないと思います。

(委員長)

給食の現状に関して、僕も初めて聞きました。

問題は、20代、30代、欠食が多いですね。これをどうするべきか。食べ物の流通が変わってきています。特に食育をしっかり受けてない20代、30代には、もう1回再教育するべきと僕は思っています。

このやせと肥満、これはいかがでしょう。

(委員)

注意している人とそうじゃない人の差が主で、食料に関しての知識のある人はあると思いますし、逆にない人はないと思います。中学校の現場に行くと、お母さんがお弁当をつくってくれないという家庭がありますが、お母さんを追いつめてもいけないと思います。食育はもちろん大事ですし、栄養バランスも大事ですが、共働き世帯もふえていますし、実際つくろうと思ってもつくれないという状態なので、ある程度は緩く見てあげないといけないと思います。

やせと太っている人については、気にするかどうか、家にお菓子しかない子や、お菓子ばかり食べている子。それこそ保護者の教育ですし、やせているのは精神的な問題もあると思いますから、もう医学の問題になってくると思いますが、やせているのが美化されている時代ですから、そちらに流れてしまうような子は多いですね。そういう健康は教育するしかないのではないかと思います。

(委員)

資料を見て、多くの問題点があって、何を一番重点に置きたいかというところ、1つじゃないのですがポイントを絞らないと、この指標をすべて達成するのは非常に難しいことだと感じました。意識を高めてほしい人には、正直なところ届いてないと思います。野菜の1日350グラムでも、本来ならこの指標を改善していくには、意識のない人にどう伝えていくかということがすごく大事だということを資料に目を通したときに感じました。

孤食も、様々な事情があって、家族みんなが同じ時間にそろって食事をとる環境は、

平日は大人の働いている時間帯がばらばらなので難しいと思います。だから1人で食べることはやめましょうというのは、無理があると感じています。せめて週に1回でも2回でも、必ず家族がそろってほしいなというぐらいのニュアンスで、1人で食べるのを減らそうとするとか、お母さんが全部自分でやらなくてはとなってしまったら、忙しくてできない、用意ができないととても大変だと思います。

何か1つに絞り込んで、私は孤食よりも朝食の欠食のほうが問題だと思うので、例えば、朝食を食べようから始めて、そこから派生させて、ほかの分野も充実させていくというものがあればいいなと思います。

野菜や果物の摂取量についても、平和堂さんなどで売り場にレタス1枚のグラム表示や、文字を緑で書いているのは緑黄色野菜だとか、何か表示を変えるだけで、買い物に行ったときに分かると便利だと思います。スマホを立ち上げなくても、ジャガイモ1個のグラム表記や、緑黄色野菜の表記などできないですかという話があればいいなと思っていました。

どこか最重点、重点項目がダイジェスト版にもありましたが、これという1目標をつくり出せたらいいなと思います。

(委員)

保育所では、子どもたち、乳児の子どもたちの食事、特に保護者は食育に関して興味を持っておられます。保護者の方は共働きで忙しいので、保育所では簡単にできるメニューを掲示したりしています。子どもに対する食育として、保育所では赤、黄、緑に色分けをしています。たんぱく質の肉、魚が赤、緑は野菜で黄色がお米というように赤、黄、緑とすると子どもたちも理解できる。理解できる3色のメニューを考えるなど、ちゃんと食事がエネルギーになることを目で見てわかるようにすることで、やってみようかなと思ったり、子どもたちにも、保護者の方にも自分にもできるかなと思ってくださると、それが子どもたちのエネルギーになる。保育所の講演会で、講師の方が知、徳、体、知育、体育、徳育は学校でしてください。だけど食育と、それから才育、才能を見つけることは家庭ですることですと言ってくださって、食卓の中で子育てをすることが大事だと話をしてもらいました。食が学力や社会性、体力をつくることを知り、就学前の小さいころから身につけられるよう、保護者が考えてくださることで、小学校、中学校、その人たちが大人になったときに、食べることについて、当たり前になっていることが大事なのではないかと思います。

(委員長)

それでは、続きまして第3次草津市食育推進計画の概要について、事務局より説明をお願いいたします。

次第4. 第3次草津市食育推進計画の概要を事務局より説明。

(委員長)

ただいまの説明を受けまして、何か委員の中で御質問、御意見ございましたらよろしく申し上げます。

(委員)

県も第2次の食育推進計画が今年度で終了ということで、新しい計画の策定を今年度していきますが、第3次計画は平成30年から平成35年までの計画とする予定で、県の他の計画と合わせて食育のほうも平成35年までということで考えているところです。

(委員長)

次に移りますけれども、よろしいでしょうか。

では、草津市の第3次草津市食育推進計画の骨子案につきまして、説明をお願いします。

次第4. 第3次草津市食育推進計画の骨子案について事務局より説明。

(委員長)

ただいまの説明につきまして、御質問、御意見などありませんか。

私から、事務局へ質問ですが、先ほど重点項目を1つにという意見もございました。第3次計画も重点項目が3本あって、これには何か意図があるのでしょうか。

(事務局)

実は実践ができていないというような現状があり、矢印に「実践の環を広げよう」とありますが、基本方針は3つ、重点的な取組みも3つで、それぞれ実践を意識して進めていきたいと考えています。

(委員)

実践していくことの、特に家庭で実践してほしいことっていうのを1つに絞るとしたら、どれもこれも実践すべき内容だと思えますが、やはり何か1つ、ここはもう絶対というぐらいの重点があるといいなと思えます。2次の段階では、ここを重点にしてやっていきたいと思いますということはありませんでしたか。

(事務局)

2次は全般に3項目という感じで平行した形で進めてきています。御意見をいただいているように、もっと絞るとやりやすいとも思いますのでいろいろな御意見いただければと思います。

(委員)

私自身は、野菜や果物をすごく気にしていて、野菜や果物を積極的に毎日いろんな物を食べられるようになろうということから、例えば朝御飯なら簡単に野菜を使えますよ、家族で一緒につくってみましょう、といったことから派生して、ほかの分野にも影響していけるのじゃないかと思うので、自分自身も献立を考えるときに、メインは肉か魚かどっちかで子どもの意見や野菜をどう調理して旬の物をおいしい時期にどれぐらいの量食べたらいいかなと悩んでしまいますので、問題はそこだと思います。野菜から全てが派生していけばいいなと思えます。

(西田委員)

前は野菜、野菜と言いつけてきた中で、何事もやっぱりライフステージにおいて違うと思います。一概に重点と言っても子どもに絞ってということはできるけれども、一斉にこれをというようにすることは食に関しては難しいところだと思います。平和

堂さんの商品に表示などがあつたら、これは買いに行くときにわかりやすいから、できることはやっていったらいいかなと思います。でも、どこにスポットを当てて、どの子にというふうには、やっぱり草津市全体を考えるとときには難しいと思います。子どもと言われれば子どものことを考えるし、高齢者と言えば高齢者について考えるし、青年なら青年を考えるし、それぞれによって違ってくるのではないですか。

(委員)

野菜もそうですけど、子どもによって食べる量は全然違います。その子の食べられる量っていうのははかってあげることが大事で、みんな同じ量にすると、この子はたくさん食べるから足りない、この子は小食なので多すぎるなど、逆に給食が嫌いになってしまう。食は楽しくおいしくいただくというのがやっぱり基本だと思うので、その子に合った量は、やっぱり大事だと思います。

(委員)

残渣が少ないっていうのは、そういう食べる量を調整しているから、小学校の給食では余らないのねというふうに、このデータを読まなくちゃいけないということですね。

(委員)

嫌いな物については、だんだん多く食べられるように最初は一口から始まります。

でも、それが何年かたつうちに、一定量が食べられるようになるのが食に対しての教育でもあります。一定量はそれぞれゼロではない。ちゃんと口、体に入っています。0歳児のとき何も受け付けなくても5歳児になったときには一定量が食べられるようになっている現状がありますので、その後の小学校などで、自分で調整をすることもすごく大事なことです。

(委員)

子どもの食育で5つの力という話を聞きますが、小学校の6年間で最初は食べる物の野菜をつくる。つくって、自分でつくったものはおいしいと感じてもらおう。低学年から始まって、最終的には6年生ぐらいになると、自分で献立を立てて、自分でつくる。だから朝食が欠食ということは、お母さんにお任せしているわけですね。自分で朝食をつくって食べるっていう力をつけるのも食育の中の1つじゃないかなと思います。

小学校の1年生から6年生までの段階的な食育を実施することが大切で、献立を考えて、小学校6年生では自分でつくれるようになると、中学校になっても自分で食事、朝食、簡単なものならできるような食育をしていると、20歳、30代になっても、朝食を食べてもらえるのではないかなと思います。

(委員)

数字が悪化してくるっていうのは、掘り起こしができてない。もう家の中に入ってしまったらとか、そういう人たちに食に関心を持たせられたら、私は数字が上がってくると思いますね。みんな一生懸命やっているから、事業に参加する人に関しては、すごく意識も高いしね。保育所でも小学校でもみんなすごくやっていると思う。子育てサロンなんかに来るお母さんはもう大丈夫。来ない人をどうやって掘り起こせるのか、その辺が難しいけど、できればもっと上がってくるのではないかなと思う。

(事務局)

国の考えや草津市の現状からいろんな課題がありますので、計画の中では、できるだけいろんなことに取り組んでいきたいというのがあります。ただ、先ほどおっしゃっていただいたように、どれもこれも進んでないということでは困りますので、私どものほうが重点的な取り組みで、こういったものに取り組んではどうかという提案をさせていただいていますが、例えばこの中でも、先ほどおっしゃったように、やっぱり野菜のことが大事ですから、まずは野菜に取り組みましょうなど、また重点的に取り組むことを設定いただくということもできますし、先ほどおっしゃっていただいたように、重点的な取り組みを今のところ5年間の計画ですので、最初の年はこれをして、次の年ではこれをしてっていく計画の立て方もできます。関心を持たない人をこの5年間で何とかしようというような目標の設定もできますので、いろんな御意見をいただいて、またその中から今回の計画については、目標の定め方をどうするかといった点を皆さんの御意見を伺いながら、こちらのほうから案でお示しさせていただけると思いますので、色々な御意見がいただければありがたいです。

(委員長)

昨年参加した県の食育の会議で、30歳の若者の食育をどうしますかという宿題をいただきました。働き盛り、自分が食べることよりも出世という年代では、食育が浸透しない。でも、そのころの食事が成人病につながることもあって、国は重点的にやっているのだと思うのですが、学校も離れ、地域には参加してないとなれば、流通関係しかありません。近頃、コンビニにも地産地消の食材が置かれています。コンビニなどを利用した食育しかないのではというのが数名の委員の意見で、今の30代はゆとり教育世代で関心がないのでしょうか。実際に年齢を重ねると、食べること大事だと感じます。高齢者までの間、流通関係を使いながらできないかと思います。

(事務局)

草津市では昨年度、健幸都市基本計画を策定し、健幸は健康の健に幸いと書きまして健幸というふうな形でさせていただいていますが、その中では、広く健康だけではなく、いろんな環境、ハード面からソフト面まで、いろんな面に目を向けて、さまざまな主体の方に御参加いただいて健幸をと考えています。

この食育の推進計画も、そういった意味では、主体が広く今日お越しいただきます生産者さん、それから御欠席ですけど流通分野などから御参加いただき、皆様の御協力がないといけないと感じております。30代の男性ですけれども、食をどこで買うかというところになりますと、コンビニになりますけれども、もう1つ、30代の男性の方の居場所を考えますと、働いておられる企業さん、働いておられるところでの食事など、昨年のシンポジウムの中では、パナソニックさんが自社の食堂にてお野菜のバイキングをして、草津の山田のトマトがもう大変好評だったということも御紹介いただいています。JAさんに協力をいただきながらとお伺いしています。

そういった形で、いろんな方に参画いただいて進めていきたいと思っていますので、御提案いただいたように、コンビニなども計画の中に盛り込みながら、働きかけをさせていただきたいと思っています。ぜひ具体的な御提案をいただけたらありがたいです。

(委員長)

これは骨子ですから、その次の具体案が出てくれば、実践は早いと思います。実践の環を広げる。それは多分、各種団体さんの得意分野、自分の分野で伸ばしてもらうのが一番で、色々な団体から意見を出してもらおうといいと思います。具体案を会議の中でどんどん出せばいいんじゃないでしょうか。

(委員長)

御意見ありませんか。

(委員)

第2次草津市食育推進計画の評価についてですが、このアンケートなどの取り方は特定の人に対するアンケートですか。何か偏った統計とか、そういうものではないのですね。食事をしたくてもできない子供たちの親に取っているとか、そういうことじゃないのですよね。

(事務局)

滋賀の健康・栄養マップを用いており、世帯数等無作為に抽出して調査しております。

(委員)

社会背景も考えないといけないかなと思ひまして、社会的背景の中で食育の課題はあってしかりと思ひてしまい、食べたくても食べられない子とか、ここに来ておられるようなお母様方以外のお母様方とか、そういう子どもたちがいるということも1つあるのかなと思ひました。

(委員長)

考え方を、角度を変えていかなければいけませんね。これらの数値は毎年出すのですか。それとも今度は第3次の評価時ですか。

(事務局)

滋賀の健康・栄養マップ調査のほうは、最新が平成27年で、概ね5年に一度、滋賀県の全市で実施されます。

(委員)

前は平成21年で、直近が平成27年です。

(委員)

出典1は滋賀県ですけど、これは草津市のデータではないということですか。

(事務局)

市のデータです。滋賀の健康栄養マップは、県内の全市町ごとに、世帯数の1%となる世帯を無作為抽出して、健康及び栄養に関する現状と課題を把握するために、健康づくりと栄養食生活改善に関する実態把握の調査をされています。そのうちの草津市の方のデータになります。

(委員)

滋賀の健康栄養マップは県のデータと思ひましたが、その中の草津市のデータを拾い上げていただいたということですね。

(委員長)

いろいろ御意見出ましたけども、次に移りたいと思います。

続きましては、策定スケジュールについて、事務局から説明をお願いします。

次第４．策定スケジュールについて事務局より説明

(委員長)

つづきまして、次第５．その他として委員の皆様から何かございますか。

(委員)

滋賀県でも健康づくりというのを進めていただければということで、健康に関心がない人たちをどうしていくかが課題で、健康なまちづくり、地域をつくっていこうという取り組みの１つに、滋賀の健康づくりサポーターを今年の４月から創設しました。栄養成分表示をしているお店や、ヘルシーメニューを出している社員食堂さんや、減塩メニューを出している飲食店などを健康づくりサポーターという形で登録をさせてもらって、県のステッカーもつくり、それを掲示してもらって、頑張っているお店には認定証ではないですけども、そういった物を出しています。

それを見て、県民の皆様が、野菜が多いメニューのあるお店や栄養成分が表示してあるお店だということが見やすくなるような物をつくりましたので、一緒に進めていけたらいいなと思っています。

(委員長)

ほかに何かございますか。事務局のほうから何かございますか。

(事務局)

今回の会議は、８月９日水曜日１３時３０分から、会場は市役所５階の５０２会議室を予定しておりますので、よろしく願いいたします。

(委員長)

これもちまして、第１回の草津市食育推進計画策定委員会を終了いたします。

どうも皆さんありがとうございました。